

都市デザインを実践する

Challenge on the Practical Urban Design

2016.6.30 vol.242

建築×都市×地域デザイン事務所 TIT & Associates 始動によせて

The Interview on Architecture / Urban Design / Teritorial Design Unit, TIT & Associates

text_KUROMOTO/M2

2016年4月、都市デザイン研究室OBを含む3名が共同で、建築・都市・地域デザイン事務所「TIT & Associates」を設立しました。

独立とはどのような道なのか。その醍醐味、苦労とは。今月号では事務所へのインタビューを通じ、「都市デザインを実践する」生き方を探ります。



>まず、卒業してからの経歴を教えてください。

富沢：学部で卒業して、アトリエ事務所に入りました。ユニット構造を住民皆で組み立てる計画の町役場や、美術館の担当をしました。30歳で辞めて、住宅や幼稚園など、民間の仕事のやり方を覚えました。

田中：アトリエ事務所で、本社建替えのマスター・プラン、住宅、小中学校等の設計をしました。その後辞めて事務所を作ったと同時に、北沢先生から田村のPJに呼ばれて。すぐに福島に移住して、自分の事務所もUDCTもやりつつ、4年間田村に張り付いて仕事をしました。

池田：ハードな部分でまちづくりに関わりたくて、都市・建築の設計事務所で8年間働きました。まちづくりの計画や広場や公園の設計とか。その後もっと地元に密着したくて、街づくりセンターで、商店街や町会との話し合い、イベントなどを一緒にやりました。

>現在、TITではどんな業務がありますか？

田中：現在は、3人それぞれの仕事を持つて、共同で作業している段階ですが、都路は3人で取り組んだ仕事です。福島第一原発に近い田村市都路町の古道集落で、避難者が戻ってこられる都路のあり方を議論して住生活基本構想としてまとめました。これに沿って、公営住宅の設計を3人で一緒に。今年6月に竣工しました。

黒本：3人の事務所になって、以前との変化は？

富沢：やりやすい。微妙なことで悩んで行き詰まる時に聞けるから、スムーズに答えにたどり着ける。

田中：後からだと手戻りになるところが早めに分かって、リスクを減らせる。忙しい時は集まってくれて、その分回せる仕事量が増えますね。

>学生時代のどんな経験が今に生きていますか？

池田：PJで、地元の人とか研究室メンバーと話して考えるのが大切なこと。

田中：現場で自分の目で見て、地元と会話するのをデザインは一番大事にしますけど、それを一步引いてトータルに考えるのも、一方で非常に大事だと思うんですよ。

黒本：北沢先生特集でもそれを聞きました。PJは何を？

池田：鞆の浦と大野村と神楽坂と…（一同騒然）

田中：当時は、研究室同期の5人全員が全部のPJをやりました。コンペも毎月のように。時間があったからね。

池田：研究室には毎日行って顔を合わせていたので、な

んかコンペやるか！とか。

松田：PJの体験で修論の方向に影響はありましたか？

池田：PJの中で問題意識が出来てきて、深みが出て、実際に役立つ研究に発展していくんじゃないかな。

田中：PJをちょっと引いて見て、どういうことが自分で考える研究的な視点が大事だと思います。僕も当時は考える余裕がなくて、必死だったので、反省ですが（笑）。

>その学生の頃すでに、独立を意識してたんですか？

富沢：私はそうですね。なんか楽しそう、自由そうじゃないですか。（一同笑）会社に勤めるって実感がなかった。

田中：私も独立。修士出てアトリエか組織系か悩んでいて、北沢先生に相談したら、アトリエ行きなさいと言われた。その場で先生から電話して、まずは会ってこい、と。**池田：**僕も独立は考えてたかな。研究室でやっていたような、地道なまちづくりをしているのは、小さな事務所とかコンサルだと思った。

>独立してからの、やりがいや苦労は何でしょう？

富沢：やりがいと苦労は7：3くらい。やりがいはやっぱり、PJ全体を見通せる。じゃないと面白くないじゃないですか。その分責任を背負って、失敗は全部自分に返ってくるのが苦労だね。自分の成果を自分の名前で出せるのが面白いし、次にもっと上の仕事が降ってきて、できることが増えていく。それをやりがいにしてます。

池田：学生のときに研究室で純粋に考えていたところを、今も続けられるのは良いのかな。

田中：自分で決めて責任とるってことが、いちばん楽しいから、やりがいありますよね。それにつきますね。苦労はそんなにないと思います。楽しいっすよ。ほんとに。

>建築をやる上で、都市を勉強していた強みは？

富沢：建築も都市の文脈を考えるけど、見方が別かな。

田中：初めの発想から、敷地にとどまらない大きな所から考えるべき問題もあるかなと思います。

富沢：アトリエ系は全然違う世界で、逆に得たものも大きい。建築のスタディでは、選択肢を100出して一番を選択していく考え方。都市工は大きな話はうまいけども、実際どう作るかまで細かく考えられた方が良いかな。

池田：都市は、建築のような与条件がそもそもなくて、事業をおこすところを考えますよね。

富沢：あと建築は、レベルが高い人が使うイメージで考



◀ TITとして初の作品、都路の公営住宅。出口教教授監修のもと、建設地選定から住民と話し合い、高齢者のが中心部で暮らしやすい、12戸の住宅と集会所。

▶ 2014年、3名で応募した十日町市民活動センターのプロポosal。都市へ展開する参加型リノベユニットで最終6選へ。TIT結成の基礎に。



えちゃう。ここで対話が起こって楽しい空間になる、と。でも都市は、色んな人向けに優しいものを作る。

池田：逆に都市は、そこを見すぎてジャンプしちゃう。これ良い！と思っても、でも目の前で話をしている高齢者の方はそんな使い方はしないだろうな、と。

田中：まあ都市デザインも一方で、新しいことをして次の時代に進んでいく方向性もあると思いますね。

>都市デザインに、建築の知識は必要だと思いますか？

富沢：なるべく設計を、具体的に考えてやり切った方がいい。都市は、ここは大体こんな感じで、で終わるじゃないですか。経験上、そこを文書や図面で、ここは何ミリなのかをリアルに数値化する訓練をした方がいい。

田中：建築でなくても、何か得意分野を持つといいと思います。建築だと構造、意匠とか、建築以外でも経済や政治とか色々あって、何か持つてると生かせる。都市デザインに携わるのであれば、軸があるほうが良い。

黒本：都市工の池田さんの場合、得意分野は何ですか？

池田：なんですかね。事業や人をどう動かすか、仕組みをどう作っていくかをまず考えます。

>今後の事務所でやっていきたい仕事は？

富沢：うね。何したいかな、3人で。課題を真正面から受け止めて解くことかな。壊して建てるんじゃなくて、まちの資源をどう読み解いて活かしていくか。

田中：都市の中で、もう一步考えれば良くなる所を変えたい。事業者の考え方通りに作るんじゃなく、原点に戻ってとか、一步進んだところを提案・実現したいです。経済活動の中で進む開発にも、デザ研でやったような、住民の立場や違う分野の考えを取り込んでいきたいです。

>最後に、読者の学生へメッセージをお願いします。

池田：色々な立場の人と議論してきたつながりって、今すごく大切。PJとかの貴重な機会をぜひ頑張って。

田中：自分が大事に思うことをずっと持ち続けて、信じてほしいなと思います。皆がそうできると都市はよくなっていくと思います。自身が楽しいと思うことを。

富沢：アトリエ事務所で、悩んで本当に辛いときに、「何言ってんだ、もっと楽しめよ！」とポカっと怒られて。今考えると、もっと楽しむ努力をしろよ、だったんですね。眞面目に考えて取り組むのが楽しむことだし、そうして初めて良いものができる。■



「北沢先生に言われたのは、『20代のときにめいっぱい 苦労しろ』と。」

アルバイト募集！

都市デザイン事務所で働いてみませんか？TITではアルバイトを募集中です。

業務内容：集合住宅、駅前開発、公営住宅などの建築設計・都市デザイン
条件待遇等：応相談

希望者は、TITまたは
都市デザイン研マガジン編集部へ！



独立という生き様から、都市デザインの専門性・職能に至るまで、多くを学ばせて頂きました。TITの皆様、有難うございました！（聞き手：M2 黒本、M1 田中、M1 松田）

独立という生き様から、都市デザインの専門性・職能に至るまで、多くを学ばせて頂きました。TITの皆様、有難うございました！（聞き手：M2 黒本、M1 田中、M1 松田）

修士1年三文字昌也君、卒業設計の奮闘録

Sammonji (M1) Won the Lemon Award on Diploma Design

text_KUROMOTO/M2



M1三文字は、2015年度卒業設計「沁透街巷 - 台湾台南市における都市空間の漸進的更新設計 -」にて、第39回学生設計優秀作品展「レモン賞」を受賞しました。例年都市工学科から1名が展出し、講評を経て11名がレモン賞として選出されます。都市工学科での受賞は、第37回の柴田純花さんに続き二度目です。

また三文字は、5月29日、設計対象地であり半年間現地調査等のため滞在した台南・成功大学にて講演会登壇を果たし、台南の魅力ある都市構造を、小籠包の「籠・皮・餡」と読み解き、更新手法のランゲージを提案する設計の内容を、約1時間にわたって語りました。



おかげさまでこの度レモン賞を受賞することができました。

黒瀬助教に再三言われていた賞でもあり、非常に嬉しいです。

都市工の人間にとってレモン展は異種格闘技。審査員も参加者も建築家という土俵で、戦う道具が違う。そんなわけでプレゼンでは敢えて「建築人」との違いを強調し、面白がられての受賞だったように感じます。それにしても今回の街区設計的な提案が受賞したというのは、建築の人が今改めて都市に寄り切っていることの証左に思えます。

そうなると、(徒らに建築と都市の対立を煽るつもりはないのですが)、建築が都市のことを考え始めた時に、都市の人間はどこで勝てるのでしょうか? 実はレモンの審査委員に突っ込まれたのもそこで、山本理顕曰く「都市工だからって逃げちゃダメだよね。建築が見事な設計で空間の問題を解決しているときに、都市工はどこに強みを主張できるんだろう?」。今後ゆっくり考えたいと思います。

そして現地の報告会にも持つていて、ようやく卒業設計から卒業できました。本当にありがとうございました。



コラム Column: 10f Plan

先月の9階デスク地図に引き続き、今月号では研究室10階のデスク地図を紹介します。ミーティングで使われる9階に比べると、本研究室の生徒にとっても馴染みの薄い10階の実態を描きました。それぞれの机に現れる個性にもご注目ください。



作画者あとがき (M1 松田)
2回に渡り、平面図を作成いたしました。9階10階のどこに誰がいるか分かるようにしよう、というのが出発点でしたが、どうせなら各々の個性まで見えるような今の記録に、と詳細を書き込みました。アイレベルでのイメージと少し違った研究室の顔になっていると思います。

デスク地図 (10F 版)



台湾取材旅行記

今回、講演会を聞きに、M2 黒本ほか1名で台湾を訪問しました。35度を超す暑さの中、日本と全く異なる街並みを歩いた感想を写真とともに報告します。



台中国家歌劇院 (オペラハウス)

伊東豊雄が設計し、施工中のすごい建ぺい率ですが、上層部にも縁が多く、意匠もどこからなる大胆なデザイン。



生活感溢れる台南の路地

三文字の設計した街区です。道路上に屋台やテーブルが並ぶバイクしか通れない路地に、び、お祭りさながら。地元客が中心の夜市です。

黒瀬武史先生のメッセージ



九州大学人間環境学研究院准教授

学部時代は、(おそらく一晩で)さらりと設計課題をこなして、なかなか本気出してくれなかった三文字くん、最後にやってくれました。都市計画の枠にとらわれない、今後の活躍を期待します! オメドトコ。

2016年度企画 季刊特集号

UrbanDesignLab Magazine 6月特集号告知 北沢猛先生特集第3弾



野原卓先生と、
都市デザイン研究室のルーツに
迫りました。

北沢先生の残したもの
アーバンデザインセンターをめぐる議論
学生時代の貴重な回面
准教授としての現在の考え方…
+横浜まちあるき with 横国生

Information

6月のウェブ記事

高島平PJ 高島平ワークショップ!
佐原PJ さわらぼサポーターズ会議
三国PJ アーバンデザインセンター勉強会 @三国
ぜひご覧ください! <http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/>

7月の予定

7/2 神田PJ 千代田まちサポ審査会
7/15-17 佐原PJ 夏の大祭
7/27-28 ジュリー
7/29 修士論文審査
7/28-8/5 UEHAS ワークショップ

編集後記

黒本 剛史

編集長になって、過去のマガジンを1号から読み返してみました。偉大な先輩方が自分と同じ修士課程として、考え、実践を積み重ねた様子がありありと浮かび上がっていました。今の読者だけでなく、何年後の読者にも向けてマガジンを執筆できる重みを感じつつ、益々真摯にマガジンに向き合いたいと思います。